

射水市立歌の森小学校活動報告

◆活動取組の紹介

毎月10日はアルミ缶・ベルマークの回収

ボランティア委員会では、ベルマークやアルミ缶の回収活動を主たる活動として長年続けている。ポスターや放送で全校へ呼びかけ、毎月10日の登校後の朝に回収活動を行っている。その結果、全校児童が自分たちでできることに取り組もうとする意識を高めることができた。回収に協力してくれた児童には「ありがとう」とお礼を言いながらシールを渡し、色団ごとにベルマークのキャラクターに貼ってもらった。



毎月のアルミ缶・ベルマーク回収活動

ちょこボラ週間

ちょっとしたボランティア(ちょこボラ)を積極的に行う5日間を「ちょこボラ週間」として設定した。ボランティア委員会の児童が「気軽にできるボランティアを行おう」と呼びかけ、全校で取り組む活動であり、数年間継続している。1日1回以上ちょこボラを行ったら、委員が作成した用紙にシールを1枚ずつ貼り、色付けをしていく活動である。2学期は「歌ボラのもみじをいろどらせよう」と銘打って活動を展開した。学級のもみじが次第に赤く色付いていくことで、自分たちの行動の結果が色に表れ、達成感を味わうことができた。週間終了後は、各学級の台紙を全校児童が目にする掲示板に貼り、温かな一体感を味わうことができた。

児童集会での発表

2学期に行われた児童集会の中で、全ボランティア委員が参加して、ベルマーク回収の仕組みについての発表や、ちょこボラがテーマの劇を発表した。ボランティアをより身近に感じてもらうと内容を考えたり、練習を行ったりすることを通して委員自身が意識を高めることができた。



集会でベルマーク回収の仕組みについて発表

◆活動していてやりがいや喜びを感じる時(児童の声より)

- ・ボランティア回収のとき、たくさんアルミ缶やベルマークを持ってきてくれた人を見ると、「たくさん集まっていたよかった」と思った。放送やポスター等で呼びかけることで、たくさんの方が協力してくれている様子を見てやりがいを感じた。
- ・ボランティア活動をすると、お礼が返ってくることで、喜びや嬉しさを感じるようになった。進んでボランティア活動をしたときに、クラスの友達や先生から「ありがとう」や「ボランティア活動をしていてすてきだね」などと言われると嬉しくなった。今後も友達や下級生、お家の人等、周りの人に対して優しく接することができるようにがんばりたい。
- ・ベルマーク回収の説明の発表を通して、自分自身もベルマークを回収した後どのようなに使われているか知ることができた。これからもボランティア委員会であることに関わらずボランティアを続けていきたいと思った。

◆最後にひとこと

ボランティア委員会の児童の中には、ベルマークとアルミ缶の回収や、ボランティアのよさを伝える活動を通してすすんで誰かの役に立とうと行動することができるようになった。子供たちと共に信念をもち、やりがいを感じられる心温まる活動に、今後も取り組んでいきたい。